

足立区議会議長 伊藤 のぶゆき 様

足立区議会議員 37 番 長井 まさのり 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 政策経営行政	I.子ども・若者への支援について (1)足立区子ども・若者計画について 昨今、子どもや若者を取り巻く環境は大きく変化しており、先々への漠然とした不安感も高まっている。令和5年4月に「こども基本法」が施行され「子ども・若者を権利の主体として尊重し、その最善の利益を考慮すること」などが基本理念として定められた。当区としても、自己を肯定し自らの人生を切り拓いていくための地力を付けてもらえるよう「足立区子ども・若者計画」を本年3月に策定した。 ①区はこれまで、治安・学力・健康・貧困の連鎖をボトルネック的課題と位置づけ、その克服に注力してきた。特に、貧困の連鎖は他の3つの課題に影響する根源的な課題であり、平成27年度を「子どもの貧困対策元年」と位置付け「未来へつなぐ あだちプロジェクト」を策定し、全国に先駆けて施策を展開してきた。これまでの取り組みの成果はどうか。 また「足立区子ども・若者計画」にどのように活かしてきたのか、併せて伺う。 ②この計画は2030年までとなっているが、計画開始後の施策の点検や評価は庁内横断的にどのように実施していくのか。 また、計画に基づく施策の成果や課題などは、定期的に公表すべきと思うがどうか。 更に、計画の実効性を高めるため、子ども・若者の意見や区民ニーズなどを的確に捉えていくとともに、PDCA サイクルで計画の進捗を整理し必要に応じて施策や事業の見直しを図るべきと思うが、併せて伺う。
	9月8日 午前・午後 9時30分受付 質問時間 20 分

	37 番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
2 衛生行政	③計画では、こども計画審議会から新たな課題が提言され「子ども・若者の命を守る教育と支援」が位置付けられた。特に、近年増加する中高生世代の自殺対策は喫緊の課題である。今後は、若年者支援協議会として区内都立高校や若者の居場所、体験活動を実施している民間団体などへのアプローチに加え、先般当区が設置した「子どもの自殺対策に係る法定協議会」と事例や対応を共有し、対策を講じていくべきと思うが伺う。 (2)子どもの自殺対策について ユニセフが本年5月に公表した報告書によると日本は学力面で高い水準にある一方、15～19歳の自殺者は先進国など44か国中4番目に高い状況である。また、厚生労働省によると令和7年全国の小中高生の自殺者数は538人と過去最多を記録している。当区においても近年、全体の自殺者数は減少しているものの10代では令和6年に8人で過去最多となり、令和7年も8人と高い状況である。 ①令和7年、当区の10代の自殺者8人は全員15～19歳となっており、10代後半の世代が多い現状である。令和5年以前と比較し、数値や原因、動機の分析はどうか伺う。 ②区はこれまで「自分を大切にしよう」のテーマの下、区から保健師を派遣するなど「SOSの出し方等教育」を小・中学校全校で実施してきた。その効果はどのように捉えているか。 また、高校においては令和6年度1校、7年度3校で実施しており、令和8年度は5校の目標と聞いている。しかし、区内の高校は11校あり、この世代の自殺者が多いことから学校と協議し、毎年全校で実施できるよう働きかけていくべきと思うが、併せて伺う。 ③児童・生徒のタブレット端末にSOSフィルターを導入し「死にたい」等の自殺関連用語などを検索した際、悩みに合った相談窓口やセルフケアの方法をまとめたポップアップを表示している。現在の状況と効果はどうか。 また今後、新たな技術が開発され自殺に関して特に緊急性の高いワードを検索した場合には、事業者から区に報告が入るといったことも可能になると考える。その際は、個人情報に細心の注意を払いながら、こうした技術を活用するという考えはどうか、併せて伺う。

	37 番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
3 福祉行政	④子どもが発する小さな SOS を大人が見逃さず、プライバシーや人権にも十分に配慮しながら必要な支援機関につなぐ仕組み、アプローチ等も今後、検討すべきと思うが伺う。 ⑤先月「足立区子どもの生きる支援・自殺対策」推進シンポジウムが開催された。NPO 法人ライフリンクの清水代表からは「こどもが自殺で亡くなるということは、こどもが社会に殺されているということ」との衝撃的な問題提起もあった。当日のアンケートでは、どのような声があったのか。 また、この度のシンポジウムの成果をどのように捉え、今後につなげていくのか、併せて伺う。 ⑥区は、国の「子どもの自殺対策に係る法定協議会の効果的な運営モデル構築事業」に応募し、この度採択された。今後は、委託先であるライフリンクとともに支援介入時のフローや支援プランなどを作成し、医療との連携も強化すべきと思うがどうか。 また、子どもの自殺リスクに接した緊急時などの備えやフローに基づく訓練を行い効果を検証し、全国のモデルとして発信すべきと思うが、併せて伺う。 (3)学校の長期休暇中における障がい児の居場所づくりについて 障がいのある子どもは通常、例えば花畑学園などの授業が終了すると放課後等デイサービスで過ごすことができる。しかし、夏休みや冬休み等の長期休暇中は学校が休みのため、障がいのある子どもを持つ保護者は朝の出勤時間から子どもを預けることができず勤務形態を変えたり、やむなく仕事を継続できなくなるケースもあると聞いている。学校の長期休暇中は、子どもたちにとって貴重な学びや体験の機会である一方、障がいのある子どもとその家族にとっては日中の居場所の確保が大きな課題となっている。 ①当区において、長期休暇中の障がい児の居場所確保の実態を現状どのように把握しているのか伺う。 ②保護者からは「長期休暇中に朝から子どもを預かって欲しい」との相談も我が党に寄せられた。こうした保護者の切実な声や現状を把握すべきと思うがどうか。 また今後、区内の放課後等デイサービス事業所で長期休暇中の居場

	37番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
4 衛生行政	所づくりに協力する事業所はどれだけあるのか調査すべきと思うが、併せて伺う。 ③令和8年度から東京都では長期休暇中の「障害児者の居場所づくり促進事業実施要綱」を制定し、区市町村を支援している。近隣では江戸川区や台東区など、23区中6区で令和8年度から実施している。また、他の13区でも現在、実施に向け検討を進めていると聞いている。当区としても、この都の補助金を活用し障がい児の長期休暇中の居場所を確保すべきと思うが伺う。 (4)麻しん・風しん・おたふくかぜの3つを対象とした新 MMR ワクチン接種について 麻しんは子どもへの感染力が極めて強く、海外からの持ち込み事例や国内での散発的な感染が続いている。また、風しんについても妊婦が感染した場合には先天性風しん症候群を引き起こす恐れがあり、社会全体で免疫を維持することが重要である。更に、おたふくかぜは任意接種であるため接種率に地域差があり、髄膜炎や難聴などの重い合併症を引き起こす可能性がある。こうした中、国では現在、麻しん・風しん・おたふくかぜを一度にまとめて予防接種できる新 MMR ワクチンの来年度の定期接種化に向けた検討を進めている。 ①現在、定期接種化に向け国における検討状況はどうか。 また、今後の制度開始を見据えた情報収集を区はどのように行っているのか、併せて伺う。 ②新 MMR ワクチンが導入された場合は、接種対象者への分かりやすい周知や足立区医師会との連携、予防接種の記録整備や副反応に対する説明など円滑に進めることが重要である。今から事前準備をすべきと思うが伺う。 ③現在、麻しん・風しんの MR ワクチンは無料で定期接種を実施している。今後、新 MMR ワクチンが定期接種化された場合も、子育て支援策の一つとして対象者への接種は無料化すべきと思うが伺う。
5 学校運営行政	(5)学校選択制度について 平成14年度からスタートした学校選択制度だが、保護者にとってはメリットがある一方、現在様々な課題も浮き彫りとなっている。

	37 番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
	①当区では現在、小学校は住所地の学区域の学校、または学区域に隣接する学校の中から、中学校では区内全校から希望する学校を選択できる。これまでの総括・検証とともに課題はどのように捉え、その認識はどうか。 また、保護者へのアンケートは直近でも平成24年度の調査からすでに14年を経過していることから、新たに制度に関して保護者をはじめ、児童・生徒からも意見を聞くべきと思うが、併せて伺う。 ②学校選択制度で抽選の結果、残念ながら兄弟姉妹が別々の小学校となった方から相談があった。保護者が共働きのため「学校行事などの日程を調整しづらく、子どもたちに悲しい思いをさせてしまい負担も大きい」との声だった。また、地震や台風などの災害時に一斉下校となった際、異なる学校への迎えなど、家庭の占める負担や心配・不安が大きい状況がある。当区は現在、兄弟姉妹の優先入学はできず、運動会や授業参観、保護者会などの学校行事が重なる場合があると聞いている。保護者からの声はどうか。 また、過去6年間で学校選択制度の抽選に漏れ兄弟姉妹が別々の小学校に通う世帯数や人数はどうか、併せて伺う。 ③都内の公立小・中学校で、兄弟姉妹の優先入学を実施している自治体は、現在23区中19区と聞いている。当区として、保護者負担の軽減とともに子どもたちの学ぶ権利や環境を整え、健やかな成長に向け様々な課題を整理し、学校選択制度における兄弟姉妹の優先入学を一定のルールのもと今後、検討すべきと思うが伺う。 (6)知的固定学級等について 近年、発達障がいや知的障がいなど、多様な教育的ニーズを持つ児童・生徒が増加しており、一人ひとりに応じた教育環境を整えることは、子どもたちの学ぶ権利を保障する上で極めて重要である。 ①現在、知的固定学級は小・中学校で何校あり、推移も含めて児童・生徒数はどうか。 また近年、小学校1年生が増加傾向と聞いている。令和10年度から予定されている5歳児健診においては、保護者が子どもの様々な特性に早期に気づくことが期待される。今から対策を検討すべきと思うがどうか。 更に、令和10年度以降、中学校の入級者数が増加し学級不足が見

	37番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
6 子ども家庭行政	込まれているが対策はどうか、併せて伺う。 ②昨今は地域偏在とともに抽選校も発生しており小学校では現在、すでに4学級ある学校もある。今後は、区内の中央エリアや東エリアで拡充すべきと令和8年予算特別委員会で要望してきたがどうか。 また現在、西エリア等の小学校でも4学級ある学校が4校ある。来年度に向け拡充すべきと要望してきたが、進捗はどうか。 更に今後、区内全域において中長期的な知的固定学級の整備の方向性を示すべきと思うが、併せて伺う。 (7)病児・病後児保育室について 当区は東部地域病院で葛飾区と協力し、病児保育室を開設している。また、西新井きらきら保育園とあやせ保育園の区内2か所においては、病後児保育室を開設している。昨今の物価高騰は家計を直撃し、共働き世帯も増加する中、子どもの突然の体調不良時における預け先の確保は、仕事と育児の両立を図る上で重要である。 ①令和7年第1回定例会の我が党の代表質問で病児保育室について「令和8年度に改築予定の第三上沼田保育園で区直営での設置を検討する」との答弁があった。その後の進捗はどうか伺う。 ②病児保育室は区内の東西地域だけではなく、保護者の利便性を考慮し、中部地域にも開設すべきと思うが伺う。 ③病児保育利用時は、バスタオルや着替え、おむつなど多くの持ち物が必要であり、病気の子どもを抱えての移動は保護者にとって負担となっている。持ち物を軽減する備品の拡充など、より利用しやすい環境を整備すべきと思うが伺う。 ④病後児保育室は、区内2か所でそれぞれ定員4名で開設しているが、令和7年度の登録者数や累計の利用実績はどうか。 また今後、利用実績と地域性を踏まえて将来的に拡充を検討すべきと思うが、併せて伺う。
7 政策経営行政	Ⅱ.区北東部の課題について (1)六町駅周辺のまちづくり等について

	37番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
8 都市建設行政	①区は、六町駅前区有地活用事業について複合商業施設の誘致を前提に5月、オープンハウス型説明会を開催した。これまでの経緯や取り組みを説明し、再公募の条件や開始時期について地域の声を聞いたが主な意見はどうか。 また、様々な意見をどのように調整し、まちづくりに活かしていくのか、併せて伺う。 ②民間事業者オープンハウス型説明会を踏まえてヒアリングを行い意向を確認した。施設規模や定期駐輪場についての考えはどうか。 また、隣接する公園や駅前交通広場との連携の可能性もこれまで要望してきたが、併せて伺う。 ③事業を進めていく上での、借地期間や借地料、預託保証金などの公募条件については、事業者が手を挙げやすいように検討すべきと要望してきたが、現在の状況はどうか伺う。 ④前回の公募による事業者撤退を踏まえ、今後の公募に際し公募条件に撤退防止策を加えるとのことだが具体的にどうか。 また今後、活用方針の策定や地元説明会、公募開始などのスケジュールはどうか。 更に、従前の計画を遥かに凌ぐ魅力ある事業にすべきと地域の期待も膨らんでいる。今後、事業を進めていく上で、地域に応える区の決意はどうか、併せて伺う。 ⑤令和8年第2回定例会の我が党の代表質問で、北綾瀬駅周辺や六町駅周辺などに期日前投票所の拡充を要望し「期日前投票所の空白地域解消のため、計3か所の増設を検討しており、令和9年の足立区議会議員選挙から開設できるように取り組んでいく」との答弁があった。その後の進捗はどうか伺う。 (2)自動運転バスの実証実験について ①令和8年冬から西新井駅東口と六町駅を結ぶルートで、自動運転バスの実証実験が開始される。今回の実験では、乗客を乗せずに行う試走期間を経て、その後乗客を乗せた実証運行期間へと移行していくが、それぞれの期間において、どのような視点で効果を検証し本格導入に向けての判断材料としていくのか伺う。

	37 番 長井 まさのり
行政区分	質問の要旨
	②実証実験に向けては、区民が自動運転バスの仕組みを正しく理解し、安心して利用できる環境づくりが重要である。現在、地域への説明を行う中で区民からの声や反応はどうか。 また今後、そうした意見をどのように実証実験に活かしていくのか。 更に実証実験においては、利用者や沿線地域を含め広くアンケートを実施し、運行改善に活用すべきと思うが、併せて伺う。 ③今後、車両の展示や技術の紹介など、自動運転に関する区民の理解向上に努めていくべきと思うがどうか。 また、乗客を乗せた実証実験を開始する際は、区民の安心感や正しい理解を得ていくために無償の試乗期間を十分に確保すべきと思うが、併せて伺う。 ④自動運転バスが区民から親しまれるために実証実験から本格運行に向け愛称を広く公募で募り、バスの車体をラッピングすべきと要望してきたが、検討状況はどうか伺う。 ⑤運行ルートである環七北通りにおいて自転車専用通行帯を実証運行までには、ルート内全区間で整備を完了すべきと思うがどうか。 また、各バス停留所で停車する自動運転バスと走行中の自転車がお互い安全に通行できるよう万全の安全対策を講ずるべきと思うが、併せて伺う。 ⑥今後の実証実験で得られた区民ニーズや運行データなどを活用し、自動運転レベル4に向けた今後のスケジュールはどうか。 また、他の地域への展開や実証実験の考えはどうか、併せて伺う。 (3)花畑川的环境整備事業について 令和7年6月に開催した花畑川川底ウォークイベントでは、約1,000人の来場者で賑わった。散策路の一部をキッチンカーの乗り入れが可能なスペースとして整備しており、地元の期待も高まっている。今後地域をはじめ、花畑川を考える会や専門家の意見を聞きながら進めることが重要である。完成に向けたスケジュールや整備方針はどうか。 また今後、完成まで3段階に分かれた整備の節目で花畑川の特性を活かしたイベントを開催すべきと思うが、併せて伺う。